



◆和歌で恋を実らせた
小さな男の物語

山城の国に身の丈一尺（約三十センチ）、横幅八寸（約二十四センチ）の身体の小さな男がいた。男は田舎に住んでいても意味が無い、都で働き、出世したいと上京するも、都の人々は男の容姿をからかい、思うような仕事には就くことができなかった。

ある時、男は清水山の松葉を集める仕事を与えられ、本意ながらも毎日清水山へ通った。清水寺の縁日の日、松葉集めに疲れた男は道具を放り出したが、参詣する人々の中にいた美しい女房に目がとまり、一目で恋に落ちた。男は女房の跡

を追ひ、小さな身体は怪しまれることなく、彼女の屋敷に辿り着き、謎解きの恋文を送った。すると謎を解いた女房から九日後に逢いたいと返事が届く。

約束の日、男が女房の屋敷を訪ねると、男の姿を見た女房は驚いて部屋に引きこもってしまう。しかし男は引き下がる訳にはいかず、庭から和歌を詠んだ。すると和歌に感心した女房は障子を開き、男を招き入れた。その後、男が女房の琴を割ってしまいが、ここでも和歌を詠み、事なきを得る。二人は深く結ばれ、末永く暮らしたのち、男は五条の天神、女房は聖観音と生まれ変わったと物語を終える。

本書は十六枚の料紙を繋いだ巻物である。紙の繋ぎ目に絵や文字があることから、紙を繋いだ後に、絵と本文を書いたことが分かる。江戸時代の極彩色の奈良絵本の持つ華やかさはないが、人々の着物や表情、清水寺や屋敷のふすま絵、庭の色とりどりの草花など、色鮮やかに細部まで描かれている。

おとぎぞうし
御伽草子「小男の草子」は、和歌の才能により恋が成就する物語であるが、女房と結ばれた男が打出の小槌により、身の丈七尺余りの大男に成長し、筑紫の地を賜り、夫婦は仲睦まじく暮らしたとする物語もある。

（天理図書館 西田裕美）

＜天理図書館のお知らせ＞

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>

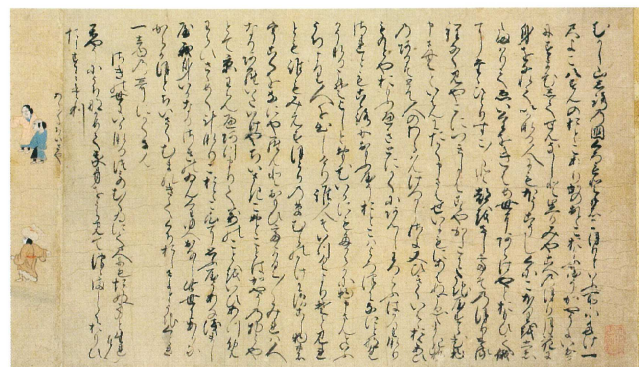
◇平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○6月の休館日：2日・9日・16日・23日・28日・30日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）

※最新の情報については公式HP、X（旧 Twitter）でご確認ください。

小男の草子絵巻



▶【こおこのそうしえまき】

室町時代末期写

1軸

縦34.4cm 横821.8cm



DATA